

届け世界へ！！私たちの願い

「第48回高崎ユネスコ国際児童画展」が、令和2年10月23日～27日（高崎市民シティギャラリー）にて今年も無事に開催されました。

高崎ユネスコ協会会長賞に選ばれた作品

小学校の部： 上室田小学校 6年 高山 凜



中学校・特別支援学校の部： 大類中学校 3年 小島 遙



コロナウイルス感染防止のため、入場時の手指の消毒や健康調査表への記入、さらに検温など、種々の感染防止策を取ったうえでの開催でした。



また、コロナ禍での児童・生徒の皆さんや指導する先生方の負担軽減を図るために、出品数を削減するなどの事前の配慮も行いました。その結果、小学校からは514点、中学校からは119点、合計で633点（昨年1227点）が出品されました。



例年にも増してどの作品も素晴らしく、会場内からは「上手だねえ!」「凄いねえ!」などの賞賛の声があちこちから聞こえてきました。家庭学習の時間が長く、学校の授業が十分に受けられない環境下であるのにこれだけの作品を生み出せる児童・生徒の皆さんの力量の高さを改めて認識することができました。

5日間の総入場者数は2,357名でした。また同時に受付で行った寺子屋募金への協力額は17,715円でした。

イタリアからも参加



今年度は目黒ユネスコ協会会長、宮下晶子様のご厚意により、イタリアのモンテレッジオ村の2～4年生の作品が14点、会場で披露されました。展示スペースにはモンテレッジオ村に関する本や資料も置かれ、国際児童画展の名にふさわしい展示内容となりました。

高経大からうれしいボランティア

今回は高崎経済大学ボランティアサークル ACT の4人の学生さんが感染症対策で支援して下さいました。ACTの皆さんには、例年は青少年キャンプに同行していただいています。今回はキャンプ中止ということで児童画展のお手伝いをして下さいました。受付周辺の混雑が大変緩和され助かりました。今後もキャンプ以外の場面でも協力をお願いできたらと強く思いました。

